

2024 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	ポコズママの会関西
活動テーマ	流産・死産経験者でつくるポコズママの会



2014年12月から流産や死産、新生児死などで小さいのちとお別れした女性やご家族の支援活動を続けている。喪失後の女性は、周囲から『腫れもの扱い』される。その悲しい経験のために社会から孤立しやすく、生きづらさを抱える当事者の苦悩や心の傷は表に見えないため、長年社会のサポートから抜け落ちてきた。当事者は亡くした子供のことを生涯忘れないが、家族や周囲の感覚は風化していく。お空の子供を想う心の居場所は、同じ経験をした人同士が支えあう“ピアサポート”しかない。

当会では、グリーフケアを学び、自身も当事者である支援者が、先ずゆっくり個別で想いや悲しみを聴き、状況に応じて徐々に、属性別の分かち合いお話会やワークショップなどに参加してもらっている。

悲しみに向き合うグリーフワークは、非常につらく苦しい作業であるが、丁寧に時間をかけて、仲間同士心に蓋をすることなく語り合うことで、心の傷が少しずつ癒えていくことが感じられる。

流産や死産経験者の殆どは、次子の妊娠・出産を望むが、喪失経験の悲しみを忘れるわけではないので、不安を抱えての妊活から妊娠期間、出産から子育て期と継続した支援が必要となる。

母親の精神面をサポートすることで、不安感が和らぎ、産後の育児に向き合うことが出来、親子の愛着形成の育みにつながると考えられる。

2018年からは、流産や死産を経験し、悲しみや生きづらさを抱え生きている当事者たちの現状、周産期のグリーフの課題を社会に伝えるため、医療職・行政職員対象のグリーフケア研修活動を行っている。

医療学会への参加や自治体主催のお話会のファシリテーター担当なども行い、グリーフケアの啓発活動に注力している。